

節目を突破した米長期金利の今後の行方



シニア・ストラテジスト 石黒英之

ポイント① 米長期金利は11年ぶりの水準に上昇

9月20日の米債券市場で、米10年国債利回り（以下、米長期金利）は一時3.60%と11年ぶりの水準に上昇するなど、節目とみられてきた3.5%の水準を明確に突破しました。市場では、FRB（米連邦準備制度理事会）がインフレ抑制に向け当面利上げを行なっていくとの観測が強まっており、米長期金利の先高観は根強い状況といえます。

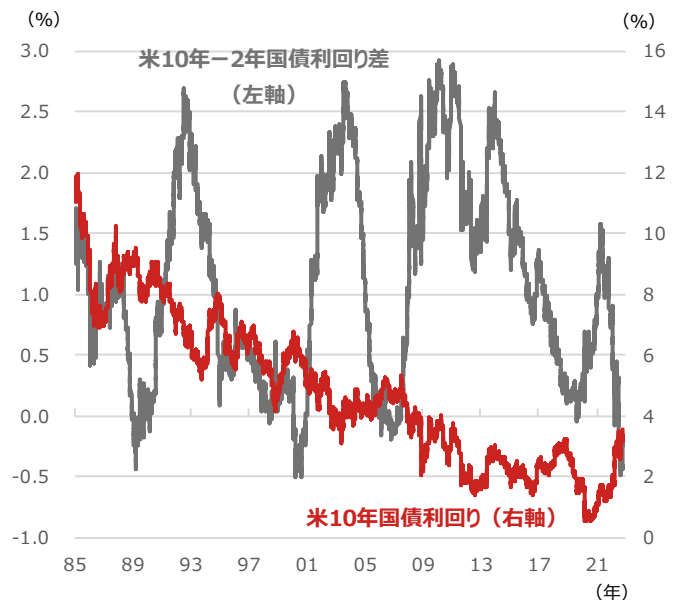
一方、FRBの大幅な利上げによる先々の米景気後退に備える動きから、米長期金利の上昇圧力が弱まる可能性もあります。過去を振り返ると、「米10年-2年国債利回り差」の逆イールド（長短金利差がマイナスとなることで景気後退の予兆とされる）が-0.5%程度まで拡大した後、米景気後退懸念から米長期金利がピークアウトする傾向があり、足元では同水準が近づきつつあります（右上図）。

ポイント② 米長期金利の上昇は最終局面か

金融政策の影響を受けやすい米2年国債利回りは4%に迫る水準にまで上昇していますが、これは現時点で市場が予想するFRBの先々の利上げを織り込んだ動きといえます（右下図）。

現在市場が織り込むFRBのターミナルレート（利上げの最終到達地点）は4%台半ばとみられており、米2年国債利回りは同水準にまで上昇する余地があるといえます。上述した通り、米10年と2年国債利回り差の逆イールドが-0.5%程度で米長期金利の上昇圧力が和らぐ傾向があることを考えると、2年国債利回りが4.5%で頭打ちとなるならば、米長期金利のピークは4%前後といえるかもしれません。米国のインフレに一部鈍化の兆しがみえつつあることから、米長期金利の上昇は最終局面に近づきつつあるようにみえます。

米10年国債利回りと米10年-2年国債利回り差



期間：1985年1月2日～2022年9月20日、日次
（出所）Bloombergより野村アセットマネジメント作成

米2年国債利回りとFF金利誘導目標上限値



期間：1985年1月2日～2022年9月20日、日次
・FF金利はフェデラル・ファンド金利
（出所）Bloombergより野村アセットマネジメント作成

*当資料は、一部個人の見解を含み、会社としての統一見解ではないものもあります。

当資料は、投資環境に関する参考情報の提供を目的として野村アセットマネジメントが作成したご参考資料です。投資勧誘を目的とした資料ではありません。当資料は市場全般の推奨や証券市場等の動向の上昇または下落を示唆するものではありません。当資料は信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。当資料に示された意見等は、当資料作成日現在の当社の見解であり、事前の連絡なしに変更される事があります。なお、当資料中のいかなる内容も将来の投資収益を示唆ないし保証するものではありません。投資に関する決定は、お客様ご自身でご判断なさるようお願いいたします。投資信託のお申込みにあたっては、販売会社よりお渡します投資信託説明書（交付目論見書）の内容を必ずご確認ください。